

熊本県における 高次脳機能障害支援の取り組み

～戸山サンライズ2階 大研修室～
平成28年2月19日

熊本県高次脳機能障害支援センター

熊本大学医学部付属病院 神経精神科

支援コーディネーター 精神保健福祉士 田中 希
臨床心理士 上野 由紀子

熊本県の紹介



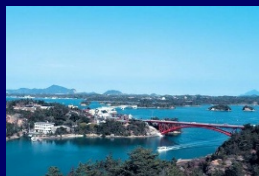
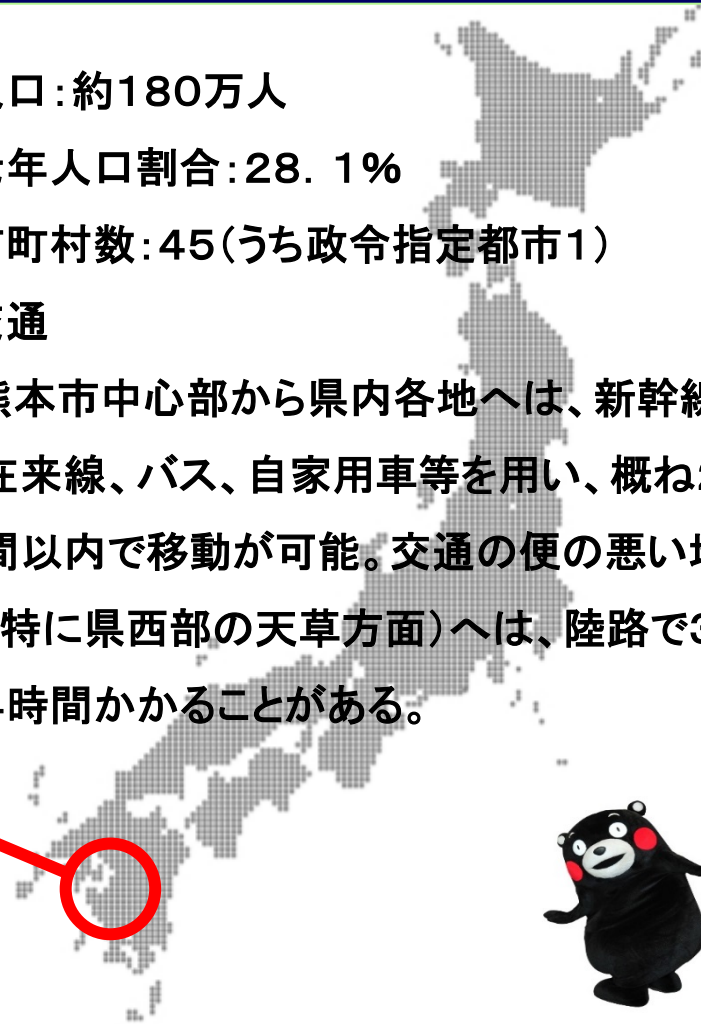
■人口:約180万人

■老年人口割合:28.1%

■市町村数:45(うち政令指定都市1)

■交通

- ・熊本市中心部から県内各地へは、新幹線、在来線、バス、自家用車等を用い、概ね2時間以内で移動が可能。交通の便の悪い地域(特に県西部の天草方面)へは、陸路で3~4時間かかることがある。



熊本県高次脳機能障害支援センター概要

【設置】平成20年7月

【場所】熊本大学医学部附属病院 神経精神科内
(熊本市中央区本荘1-1-1)

【支援コーディネーター】精神保健福祉士(1名)

【相談専用電話】096-373-5784



<http://www.kumamoto-kouji.jp/>

【神経精神科外来】

- **高次脳機能専門外来**
(高次脳機能障害支援センター・認知症疾患医療センター)
初診: 火曜日4枠・水曜日1枠・木曜日2枠 再診: 火曜日
- シルバーうつ専門外来
- こども外来(発達障がい医療センター)
- 一般精神科外来

【神経精神科病棟】

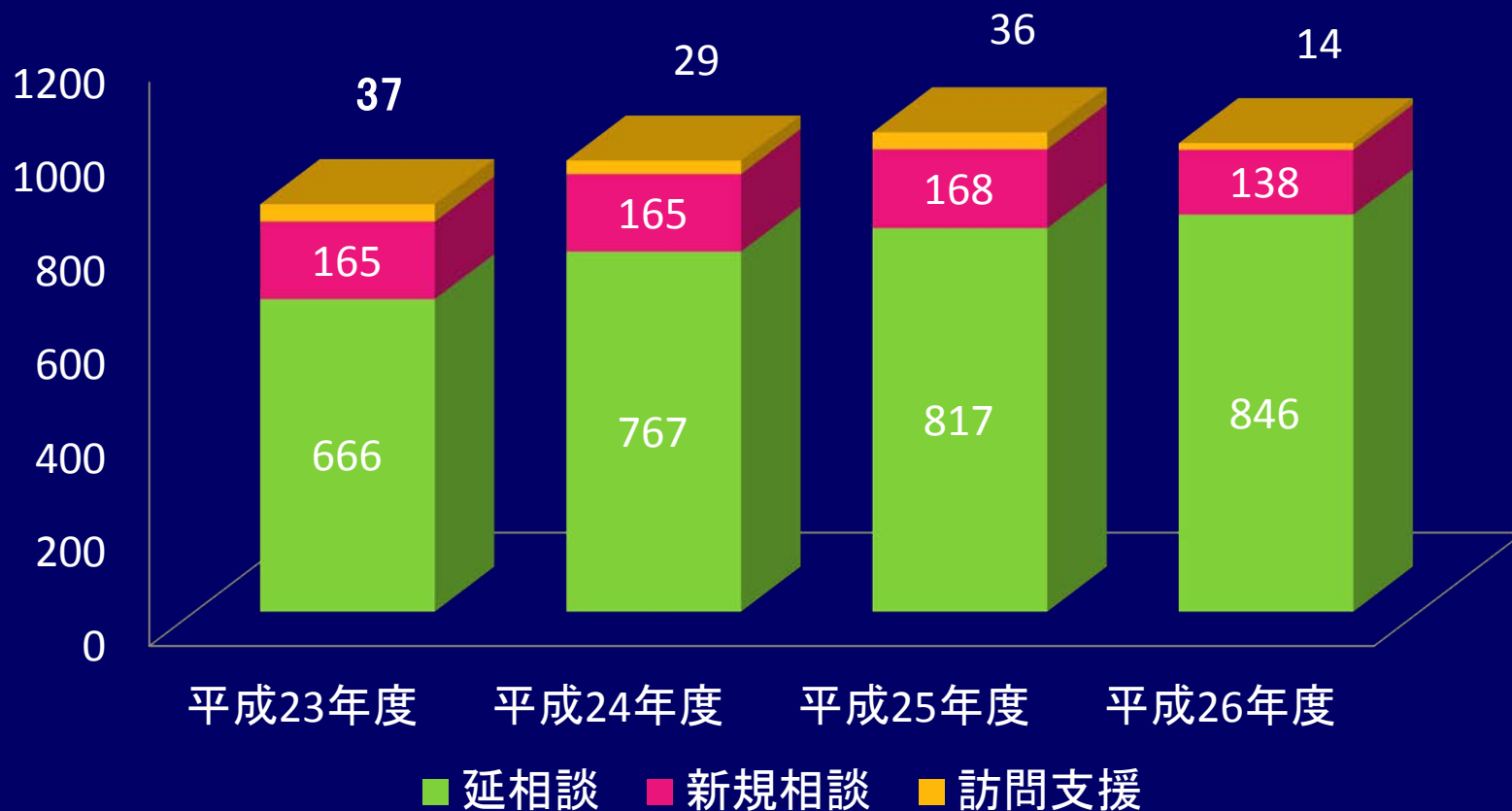
- 病床数: 50床



活動報告 ①

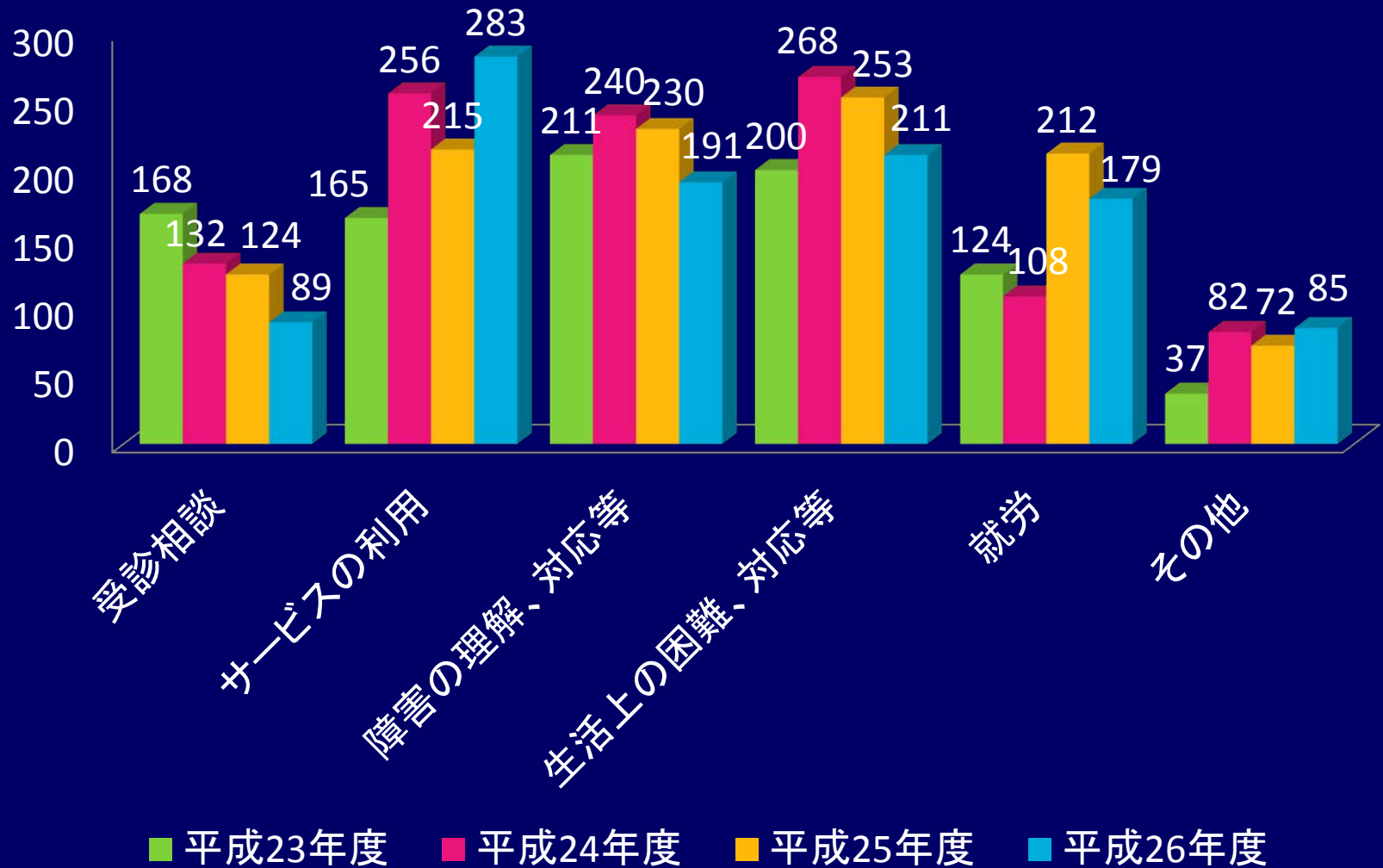
相談支援事業について

活動報告① 相談件数(延べ件数)



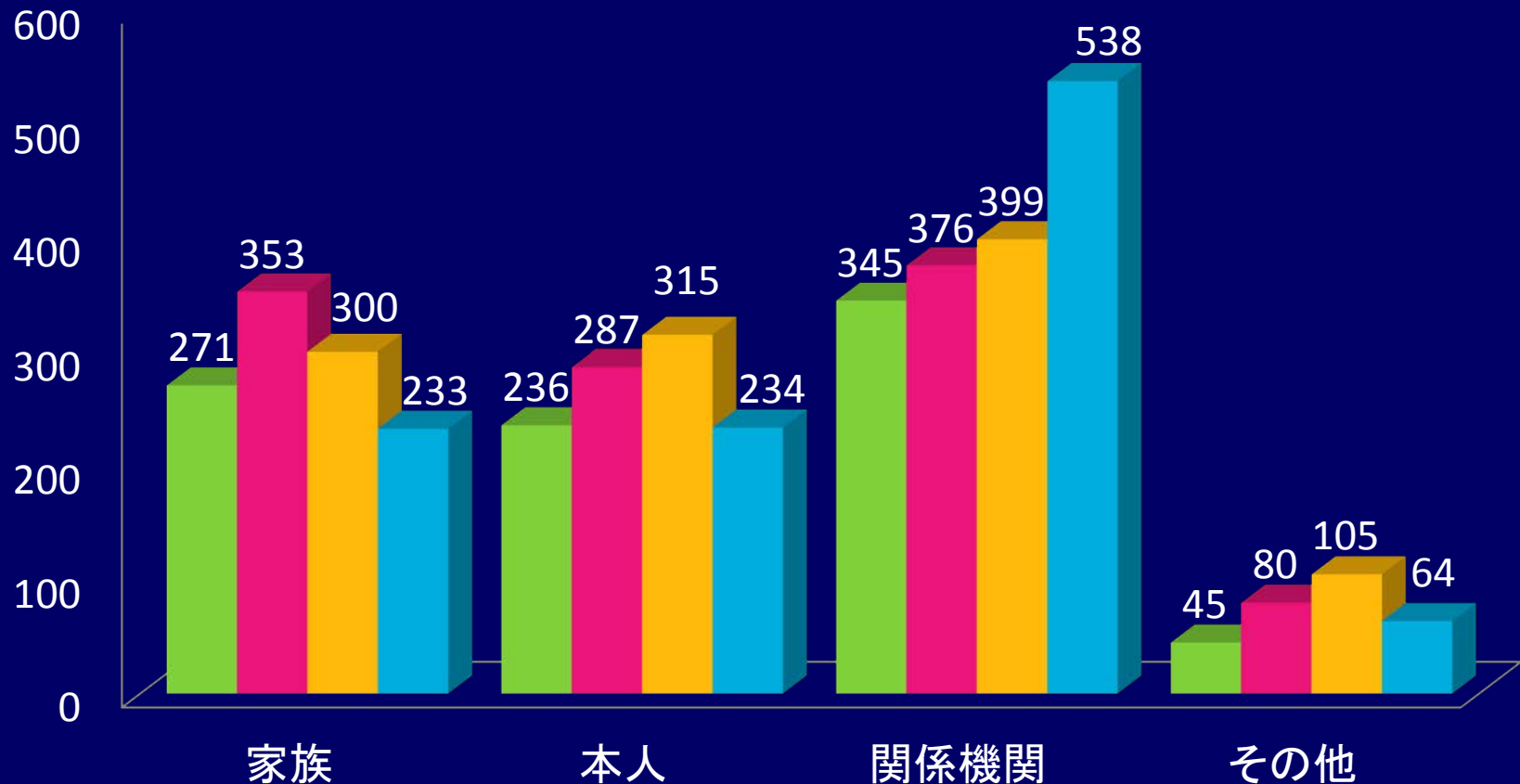
★ 電話相談、面接相談だけではなく、訪問による相談支援も実施。

相談の内訳(延べ件数)



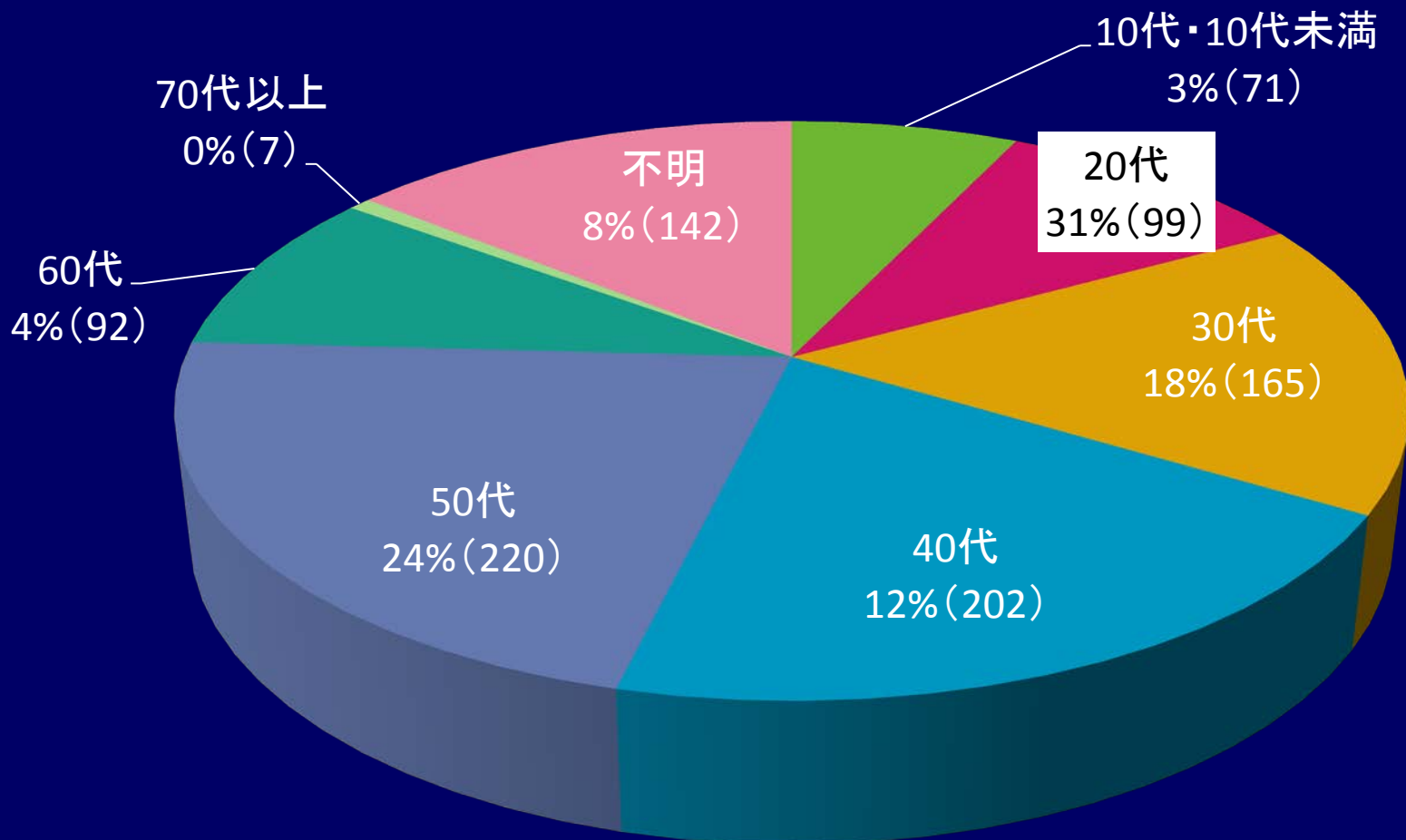
★ 開設当初は受診相談が多かったが、就労やサービス利用などの生活に関連する相談が増加している。

相談依頼者の内訳(延べ件数)



★ 家族や当事者だけではなく、関係機関(医療機関・障害福祉担当者など)、その他(教育機関など)からの相談も増加傾向。

平成26年度 延べ相談者 年齢層



★ 学齡期から高齢者まで、幅広い年齢層からの相談がある。

活動報告 ②

普及・啓発活動、人材育成について

活動報告 ②普及啓発、研修会の開催(人材育成)

(旧)熊本神経心理研究会

特別講演

(新)熊本神経心理研究会
(クローズの会)

一般演題

熊本大学セミナー
(オープンの会)

症候学研究会

症候学研究会
(オープンの会)

熊本県高次脳機能障害検討委員会
(研修会・シンポジウム)(オープンの会)

- ★ 高次脳機能障害に関する研修会や研究会活動の役割分担(クローズの会:専門職育成のコアな会、オープンの会:一般から専門職まで幅広く参加可能)を実施。

熊本県高次脳機能障害検討委員会 研修会

- H20年 高次脳機能障害への支援
～社会生活支援の在り方～
- H21年 学齢期における高次脳機能障害の諸問題
- H22年 高次脳機能障害への就労支援
- H23年 高次脳機能障害者の社会参加を考える
- H24年 高次脳機能障害者の生活支援を考える
- H25年 高次脳機能障害の当事者として、専門家
としてのメッセージ
- H26年 熊本県における高次脳機能障害支援を考える
- H27年 高次脳機能障害者の支援
～患者から生活者へのライフスタイルの転換を考える～

熊本県高次脳機能障害検討委員会とは

- H16年高次脳機能障害検討委員会発足
- 県医師会を中心に様々な専門職（医師・看護師・リハビリ関係者・ソーシャルワーカー等）の代表や行政、教育関係者などが集まり、高次脳機能障害に対して取り組むべき課題について話し合いを行っている。

【課題】

- 任意の集まり。
- 熊本市内の支援機関関係者が多数を占めている。
- 今後は、県の協力の下、協力医療機関としての指定などを検討していく必要がある。
- 熊本市内だけではなく、地域の関係機関の協力を求めていく必要がある。

活動報告 ③

高次脳機能障害支援体制作りについて

活動報告 ③高次脳機能障害支援体制作り

- 熊本高次脳機能支援ネットワーク研究会の開催
(熊本県高次脳機能障害検討委員会の下部組織として活動)

【目的】

- ①高次脳機能障害者の社会復帰に関する関係者が集い、情報交換や意見交換を行う。(顔のみえる関係作り)
- ②事例を通して、社会復帰のあり方や支援の方法などを考える。
- ③高次脳機能障害支援の広がりに役立てる。

【参加者】

高次脳機能障害者に関わる医療関係者、就労・生活・福祉・教育・関係機関、行政機関等

★ 医療と福祉の連携が課題

平成25年・平成26年・平成27年

熊本高次脳機能障害支援ネットワーク研究会の活動

- 第1回：講義：「高次脳機能障害について」
事例：「他機関と連携して就労支援した高次脳機能障害の一例」
- 第2回：講義：「北部障害者就業・生活支援センターがまだすについて」
事例：「頭部外傷例への就労支援連携の一例」
- 第3回：講義：「熊本障害者職業センターについて」
事例：「本人と家族のストレングスに着目して就労支援した高次脳機能障害の一例」
- 第4回：講義：「くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンター『縁』の活動について～就労支援の実際」
事例：「地域で他機関と連携により生活支援した高次脳機能障害の一例」

★ 第2回は菊陽圏域（地域）で開催。

★ 講義と事例発表を組み合わせ、支援機関の紹介と支援方法、連携方法について学ぶことができる。

自立支援協議会就労支援ネットワークとの連携

【熊本市就労部会への参加】

- 目的 : 熊本の就労支援のスキルアップとネットワークの形成
- メンバー : ハローワーク、職業センター、移行支援事業所、就労継続A型・B型事業所、相談支援事業所、企業、医療機関、学校、家族会、当事者会、**専門機関**、行政機関等
- 事務局 : 熊本市役所・なかぼつ

【熊本の強み】

- A型事業所数全国3位(122ヶ所:熊本市40事業所)
- 就労移行支援事業所の活躍(一般就労への移行率83.4%、6ヶ月後の定着率9割)
- 就労支援ネットワークが土壌がある(三者定例会、移行支援協議会、相談支援懇話会、就業支援研究会、ともにある会等)

高次脳機能障害の普及・啓発、支援の広がりにつながっています！

活動報告 ④

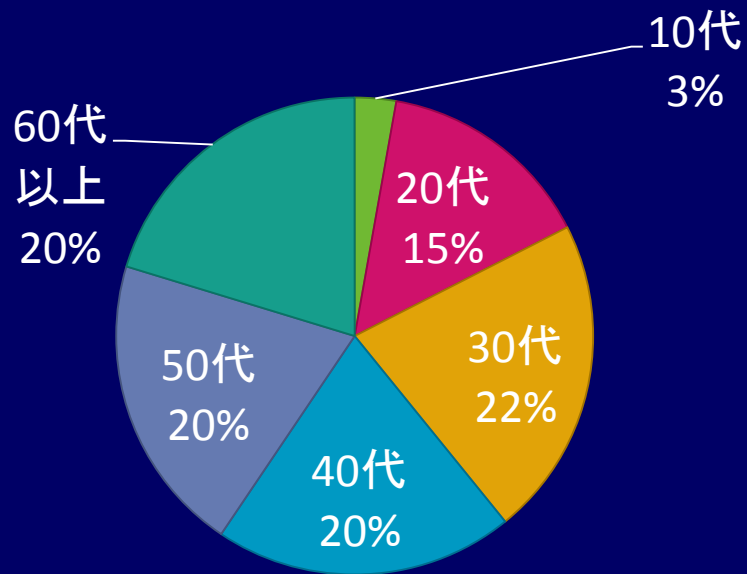
精神科における高次脳機能障害支援の取り組み

熊本大学附属病院(神経精神科)の診療体制

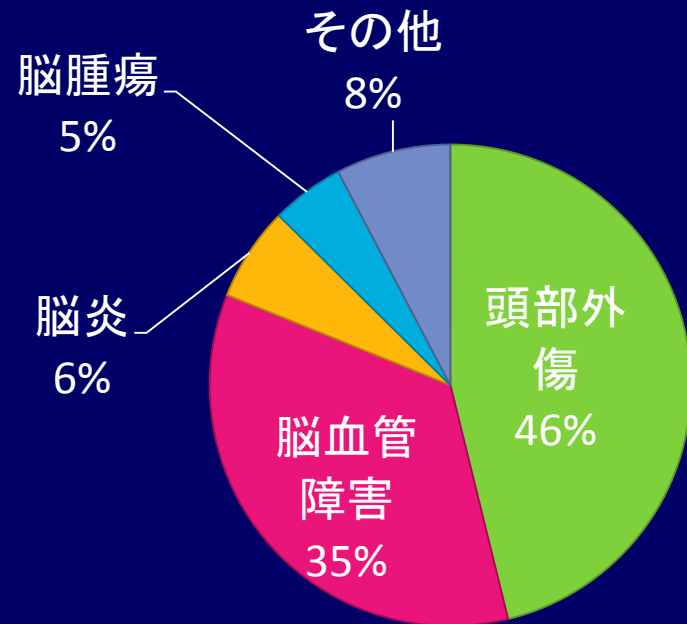
- 高次脳機能障害専門外来(毎週火曜)
- 担当スタッフ
 - － 医師:3～6名
 - － 精神保健福祉士:1名(高次脳機能障害支援センターコーディネーター兼務)
 - － 臨床心理士:3名
 - － 言語聴覚士:1～2名
 - － 作業療法士:1名
 - － 看護師:2名
 - － 保健師:1名
- 高次脳機能障害の評価
- 精神症状に対する治療、支援

調査①

年齢層 (N=143)



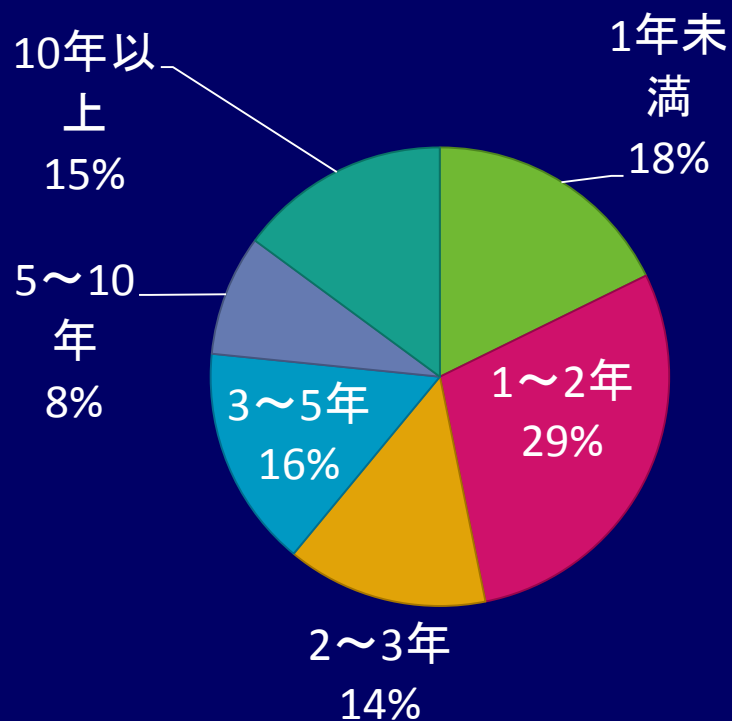
原因疾患分布図



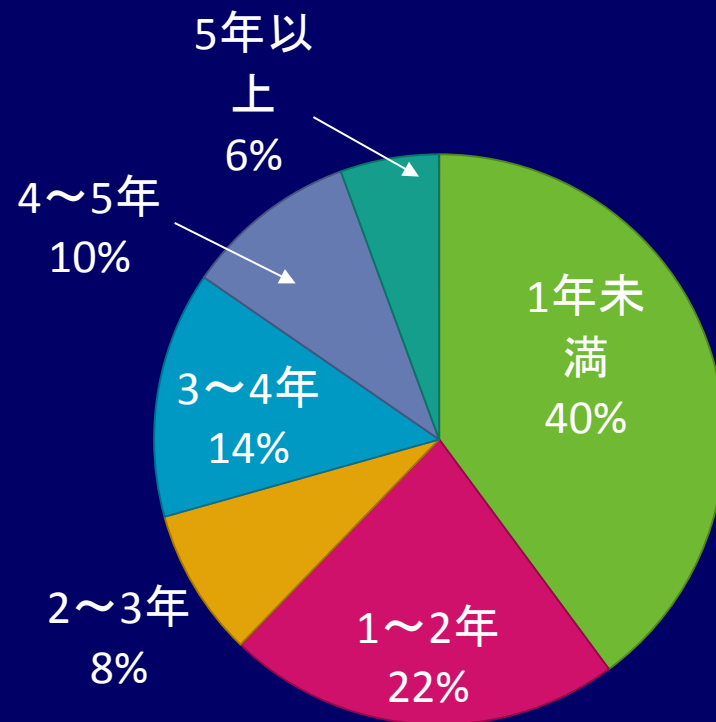
★ H19年4月1日～H25年3月31日までの6年間の外来受診状況(第37回高次脳機能障害学会報告より)

調査②

受傷から当院初診までの期間



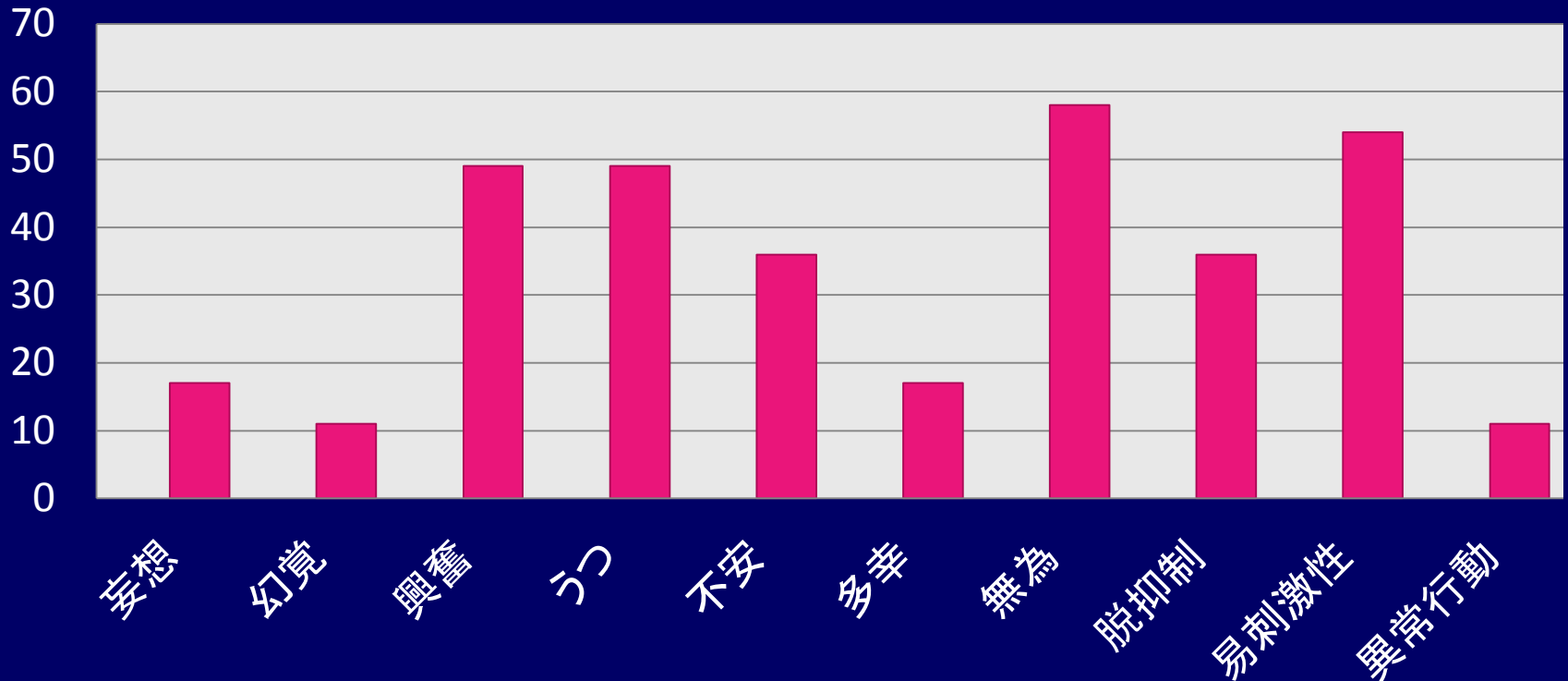
当院通院期間



★ 受傷から1年以上経過している患者が約8割、1年以上通院している長期患者が約6割を占める

調査③

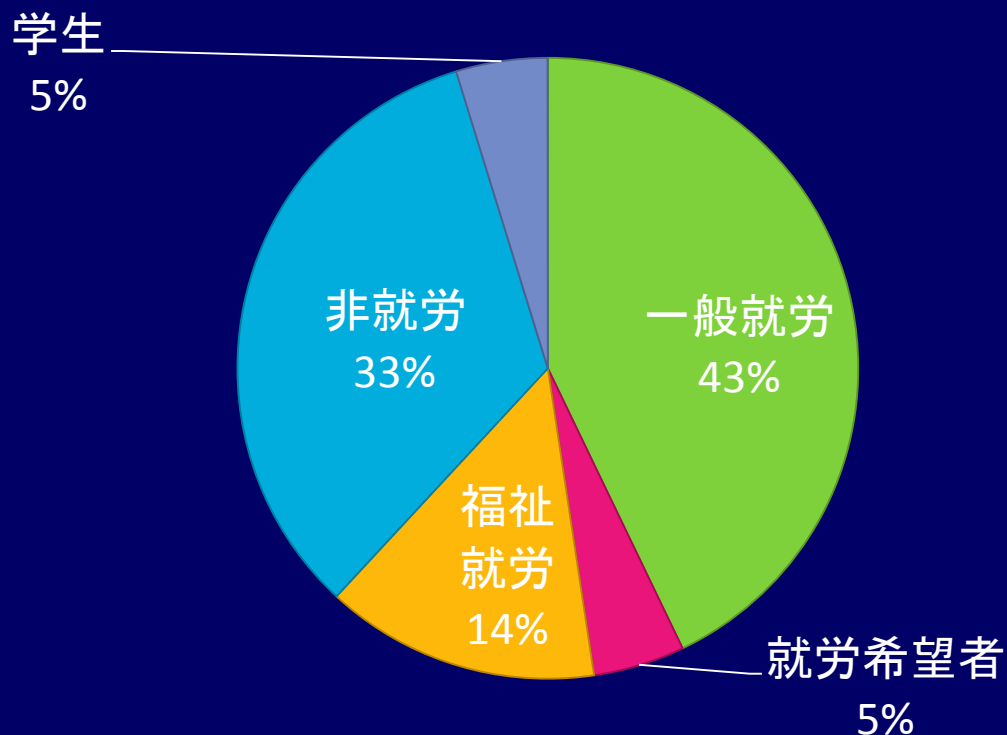
NPI (Neuropsychiatric Inventory) 下位項目の頻度



★ 1年以上通院している長期患者の約6割に無為、約半数に興奮、うつ、易刺激性がみられた

調査④

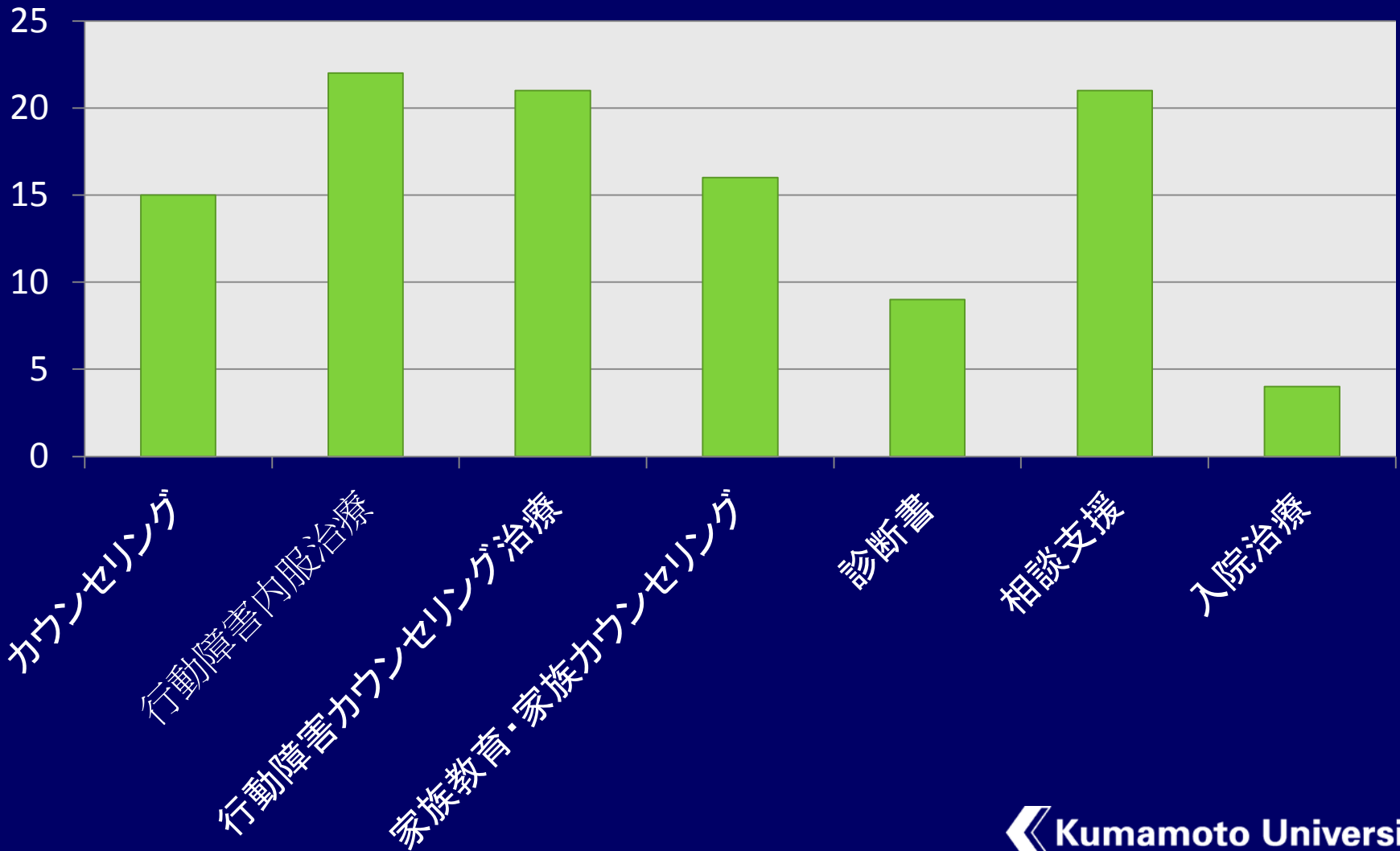
3年以上通院継続 患者生活状況(N=42)



★ 3年以上の通院継続患者においても就労率は高く、一般就労している者が約4割もいた。就労後においても、職場での不適應やその中で生じてくる課題などに対してサポートが必要。

調査⑤

介入内容



神経精神科における高次脳機能障害支援の取り組み

- アンダー・マネジメント・プログラム
- マインドフルネス・スキル・トレーニング
- コミュニケーション・スキル・トレーニング
- カウンセリング（適応障害、就労支援など）
- 家族心理教育
- 入院治療（レスパイトケアなど）
- 個別作業療法
- 薬物治療
- 環境調整

★ 職種の特徴を生かしたチームケアを実施

アンダー・マネージメント・プログラム

【目的】怒りと攻撃的行動を自らコントロールできるようになること

【気づき】

怒りを感じた時の考え方、怒りの強さ、身体反応等を振り返る
振り返ることで怒りを感じている時の自己理解を深める

【対処方法の学習】

- 情動的アプローチ
リラクゼーションの練習、気持ちが落ち着いている状態への気づきを促す
- 行動的アプローチ
怒りを感じた時の場面を設定して、怒りを適切に表現し、相手に伝える練習
- 振り返り
目的の達成度の確認、変化への気づきを言語化する

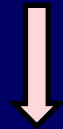
マインドフルネス・スキル・トレーニング

「今の自分」に気づく

過去のことを考えると・・・ 落ち込む

将来のことを考えると・・・ 不安になる

堂々巡り、悪循環



ひとつのこと(体の感覚や気持ち)に焦点を当てて

「いま」「ここで」の体験に集中する

例) 呼吸、身体が感じる温度

コミュニケーション・スキル・トレーニング

【目的】 他者とのコミュニケーション技術の向上

【形式】 ロールプレイ

- スタッフを相手に1人ずつ実践
- 実践者以外のメンバーは観察(評価表に記入する)
- メンバー全員からのポジティブ・フィードバック

【テーマ例】

- 適切な話題を選択する
- 会話内容を理解し、確認する
- 会話を止める(要求、交渉する)

精神科の強みを生かした支援の検討

【精神科デイケアの活用】(熊本県内の精神科医療機関で実施中)

- グループ訓練の有用性(病職・社会的行動障害・認知リハビリテーションへのアプローチが可能)、長期間の支援が可能であるが、実施している医療機関が県内1カ所。

【多面的アプローチを用いた高次脳機能障害患者の復職支援プログラムに関する研究】の実施

- ①記憶障害に対するリハビリテーションや社会的行動障害に対する治療などの介入方法、②家族支援、③高次脳機能障害を診断する医師の不足や医療と福祉の連携不足、自動車運転再開の問題など、①～③の要因に対して多面的にアプローチを実施し、高次脳機能障害者の復職における各アプローチの有効性、問題点などの検証を行う。